



・日月潭の水社化審  
頭日の娘二人と私

## 點 景

私は臺北から高雄への急行車の中で渡臺する迄の豫備知識のなかつた事を悔ひながら僅か二三日の臺灣生活の點景を思ひ浮かべて見た。

臺灣總督府の巍然と聳える中央高塔は街の遠くから望む事が出来るが明治四十五年着工大正八年竣工、當時工費二八一萬圓の巨費を投じた近世復興式五層樓は、その使命に於て當然のものであつた事をよく理解する事が出来た。今でも島内人口の九五%を占める本島人、土着人には全く驚異の宮殿である事だらう。

こうした臺灣としては新興建築に類するも

## 臺灣工藝雜錄

豊口克平

のに交つて街に連る商家の特異な建築に津々たる興味を引かれる。昔一邊三四〇丈、四圍約一里に亘つた臺北城趾の一つ承恩門は堂々たる支那風の石疊樓門の姿を残して太々しいトツクリ椰子に圍まれて異國情緒が漂ふ。

總督府林業試験場の陳列館は植物園の中に在つて舊總督府廳舎と聞くが何と支那の古代宮殿に見る門壁柱梁に粉彩し、扉には關羽もどきの人物を畫いて、まことにうれしい限りである。四圍は緑の世界で島内獨特のガジュマル、パンノ木、タコノ木、大椰子、トツクリ椰子、それにこの門前には天に宙する様な細長い檳榔樹が並列して南國の情一入である。この中で私け私の渡島の目的とする木工講習の前に本島の特種材を賞見する事が出来

たのである。肖楠(シヤウラム・せうなんぼく)烏心石(オシムチヨ・おがたまのき)茄苳(カアタン・あかぎ)楠仔(ラムア・おほばたぶ)山杉(ソアサム・なき)百日青(バアジツチイ・まき)爛心木(らんしんぼく)松梧(シヨングオ・ひのき)紅檜(アンクオエ・べにひ)亞杉(アサム・たいわんすぎ)(片假名は地方名・平假名は和名)。この外に何百種とある陳列資料に於ては覺える事も出来ず、

又記憶の中にも失はれてしまつた。私はこの植物園の中では一時間でも多くの時間を費して臺灣の夢幻的綠の世界を味ひたかつたので案内して呉れた友人の坂入君外二君と別れて繪を畫いたり、木蔭に汗を拭いて寝ころんで見たり、目を閉ぢては「眞夏の夜の夢」を追想したりした。

ガジュマル(榕樹)の不思議な形は特に私に不氣味な感じを與へるものであつた。この下を通る時、上を仰ぐと大木から幾十となく垂れ下つた氣根が怪しげな不安を感じさせる。南國特有の毒蛇の巢の様に思はれてならない。

と云ふとヤモリには全く膽を潰してしまつ

た。第一夜の宿で街の散策から歸つて女中に寝床を伸べさせ蚊帳を釣らせて横にならうとした時天井からポトリと落ちたものがある。

何気なしに見ると何とヤモリが部屋を這る様に歩き廻つてゐるではないか。膽を冷して女中を電話で呼びつけて、こんな部屋に寝られるかと叱つて見たが、「そんな事では臺灣旅行は出来ません。彼は何處であらうと遠慮なしに入つて来るがちつとも悪戯はしない可愛いものです。ご覧なさいあの通り灯をしたつて窓一杯にへばりついてゐるでせう。あの綺麗な鳴聲は皆ヤモリですよ」一笑に附されてテレ臭くなり灯を消して鳴聲の美しいのに感心しては見たものゝ外敵襲來の不安は一こゝろに消えない。

大稻埕の夜の素晴らしい賑かさには喫驚した。案内役の坂入君は名物の食物市で私には名の解らない豚づくめの色々の料理を食べさせて呉れた。屋臺店が百に餘る程並んで喧騒を極めてゐる。話は凡て本島語だから全くの別世界である。料理は安くて美味しい。内地では既に肉等仲々口に入らない當世になつてゐたので思ひ切り喰べたいものゝ何となく不

潔な感じと臭氣に壓倒されて適當に切り上げざるを得なかつた。

旅行中この時とばかり食べたのは果物である。芭蕉(キンチョウ)、あけびの様な小形の太つたのや長々と大きいや種類は多い。何れも内地のそれと比べて餘りに美しく安い。

日月潭行の車中集々(シユシユウ)の町の附近の芭蕉山を見たが何と金山芭蕉に覆はれて大きな房に二三百もの實が密集してブラ下つてゐる。私はヒョイと子供達に見せてもやり思ひ切り喰べさせてもやりたいなと思つた。

鳳梨(オンライ・ばいなつふる)私はこれの生物は食に價しないものと決めてゐたゞけに全く見直さざるを得なかつた。その甘さは私の味つたどの果物よりも最も美味しいもので歸途内地へ土産に持参同僚諸君に一片づゝを献じたところ、こんなうまいものをこればかり喰べさせるとは罪な土産だと却つて叱られた。

柑橘類は時季が早くて殆ど味へなかつたが文旦(ブンタン)を口にし、見直しの一つに

木瓜(モツカ・ばいや)がある。あの生臭い變な果物も臺灣では口の中でドロ／＼と溶け込む特有の甘さを持つ。龍眼はブドウに似た味と肉で此頃内地でも乾燥品が市場で見られる。桃色と淡黄色のレンムは酸っぱいし、お釋迦様の頭の様なシヤカトウは妙に甘くて軟かく、揚桃の味は忘れて了つたが何れも全く珍らしい面白い形のものばかりであるのが不思議でならない。

夜店で果物の美味しそうなを探しながら初めて砂糖黍をかちつて見たのも一興であつた。

造物の神は南の國に私達の目には餘りにも奇異なるものを造り下された様に思へてならない。無暗に大きな葉の羊齒等も其一種であるし、丈の高いユーカリや檳榔樹、椰子、果物の夫々が全く内地の果物の概念とは異つた變り方である。熱いところの樹物は凡て材質もふやけた軟かいものかと云へば烏心石、爛心木の如く堅韌なものもある。人種に於ても北の人種よりも南の人種がやせてカチ／＼してゐるところ等思ひ合せて見て面白い。何れにしても造型的に風物を觀察して如何にもうれ

しいものが多く、その色彩、形の上に工藝的裝飾要素が至るところに見出されるところに南國への憧憬を感じ南方工藝の起地を思はしめるものがある。

### 家と人と生活

私は建物のある風景を畫く事が好きであるから特に色々の建物には興味があつた。車窓



・本島人の農家（土角造、草屋根）

から見えるアンテナの様に突立つた檳榔樹に圍まれる田舎家。水田の中に支那の南畫に見る様な一塊の竹藪に包まれた土の家。

農家は獨立家屋であるが富農を除いて土角造りが竹柱に草屋根といふ有様である。家の正面には廳堂をとつて神佛を祀る事を忘れない。又こゝを客室ともする。左右に家族の居住する房間（パンキエン）や灶脚（ツアウカア・炊事場）が連り一廳四房と稱してゐる。

家族が増すと口字形に部屋が延長される。私が見た臺中の郊外霧峰の林氏邸等は土地の富農だけに相當廣大な前庭をひかへて圍屏がめぐらされて前門がある。前進と稱する客溜の如き房間を持ち廳堂に入る。この廳堂の左右並に背後に家族の房間や灶脚があり更に左右の口字形に前延した袖には客室や分家の人々の房間物置が取られてゐた。

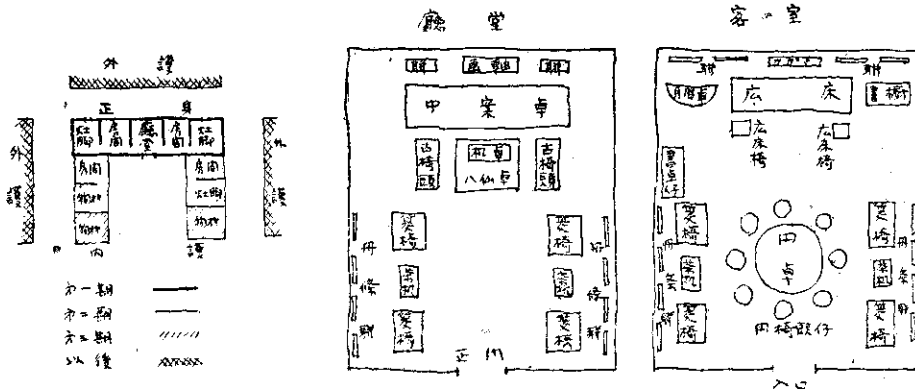
廳堂（チャトヌ）は客廳（ケエテヤ）とも云つて正中面にあり神仙祖先を祀り又應接の部屋で實に尊嚴で清潔で見慣れない吾々には薄氣味の悪いものとも云へる。例へば正面には神佛の書畫軸をかけ周圍の壁にも種々の書畫が掛けられて正面壁の近い所にある大案卓

（トアヌトオ）は祭壇で漆塗彫刻に箔押等施した豪華物に大鏡だとか据置時計、花瓶の外神佛の像、位牌、燭臺、香爐まで並べられると何となく法事に出かけた様な氣がしてならない。その他此部屋には圖の様に各種の家具が配置されてゐる。

客室（ケエセク）は來客の應接に用ひられ普通の農家には殆ど獨立したものを持たない。此部屋の什器、調度、裝飾等で財産の程度が計られるので仲々凝つたもので圖に示す様な廣床（コンツヌ）や廣床椅（コンツヌイ）筭椅、茶几、中央に圓卓（イトウ）と圓椅頭仔（イトウア）廣床左右には半月形の月眉卓（ゲエバイトウ）書卓（ツウトオア）書櫛（ツウツウ）等配置され壁面には鏡や書畫丹條聯が賑かに裝飾され、家具類は唐木や漆塗大理石はめと云ふ豪華さである。

房間（パンキエン）は一寸のぞいただけで餘り喜んで見せても呉れないのに押込みも如何かと遠慮した次第であるが特に興味を引かれたのは此部屋の主人公格の家具眠床である。眠床（ビヌツヌ）は寢臺で白木製、漆塗等多種の階級がある様だが高さ四五種位の大

・民家の構成



形で四柱を立て、蚊帳を張る。臺面は藤張で弾力もあり席を敷くのが一般であるが暑い時は籐張の上に地下に寝て冷寒を呼ぶ。夫々の夫婦が獨立した部屋住生活をするのであるからこの部屋には色々なものが備へられるわけで、衣類を収納する高低櫥(コアイケエツウ)や堅櫥(キヤツウ)の外書卓、椅子、梳粧卓等は當然ながら尿桶まで用意される。

市街地の民家や商家は連續長屋形式で内地の東北、北陸地方で見られる雨雪を避ける出軒の通路が人道と云ふわけで、スコールや暑熱を避けるには合理的だらう。又煉瓦造りや壁塗の窓面の小さいのは南方の建築同様暑熱を遮断する方法には違ひないが慣れないと空気が光から遠ざかつた陰鬱な不安におそはれる。私は臺北で此地の本島人の有力者の室内

を見て戴いたが、農家や民家と異つて各室は外國式に小部屋に連續されてゐる。中庭はないので前記の通路が公然と之に立てられて特有の竹椅子等を夜間こゝに引張り出して世間話に華を咲かせてゐる。階下は土間、二階は板敷であるが内部の家具や設備は前記のものと大して變つてもゐない様である。

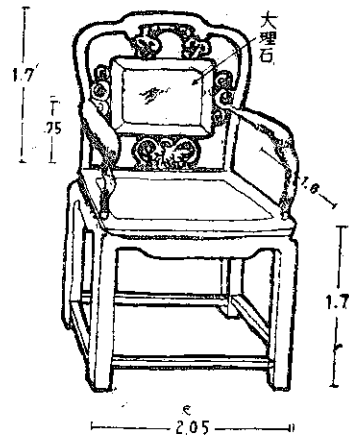
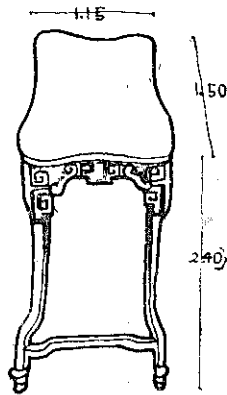
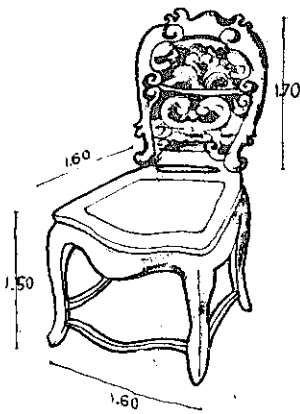
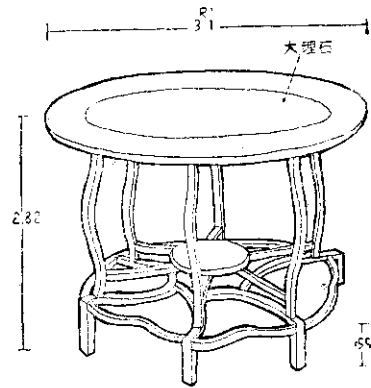
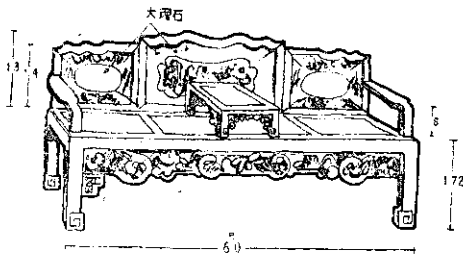
寺廟、宮も臺北の龍山寺、臺南の孔子廟、關帝廟等を見て歩いたが何れも支那のそれに劣らぬ華美壯麗と云ふより外ない。裝飾と形式で埋れてゐる。中でも龍山寺は臺灣隨一と稱されて規模も大きく丹碧の粉彩は密畫を以て畫かれ、屋根瓦重疊棟檣に龍姿を彫刻し彩雲の如き觀を呈してゐる。一般の寺、廟も柱の蛟龍彫刻、破風の飛鳳、獅虎彫刻、樓門扉の人物鳥獸が五色の原色を以て畫かれ、そり上つた陳の兩端は空間もなく粉飾される。都會地の住宅内でも柱、梁、束に蝙蝠、花鳥龍、卍字等が赤、青、綠、黄等の原色で塗りつぶされて毒々しいと云ふより外ない。家具類は支那風の彫刻の外に木象嵌により之又支那風の曲線の多い裝飾的なるものであるが之等は決して本島人の工作になるものではなく建築に於ても凡て對岸南支の工匠の手に依存してゐるものばかりである。むしろ本當に土俗的に興味を引かれるものは島内に生産される一般民具としての竹家具や其他の編組什器類や蕃人の民家、民具にある様に思はれる。

本島人の生活について生活の合理化委員をしてゐる本島人某氏について二三の話を伺つ

してゐる本島人某氏について二三の話を伺つ

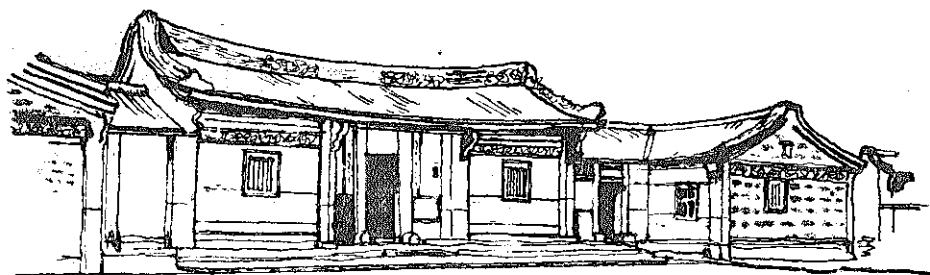
・廣床（上左）と圓卓（上右）

下は左より菱椅・茶机・菱椅



たのであるが、先づ葬祭について、虚禮的投費の無謀を改めなければいけないと云ふ事であつた。彼等の社會的尊嚴さは慣例的に之によつて支配されてゐる爲に仲々は正は困難な事らしい。最近の若い人達は餘りにも大きな家族制度下の雜居生活の無秩序から解放されて夫々獨立生活に入らうとし又住居も現代の推移に伴つて無意味な傳統を批判し初めて來て支那式と和式を折衷した形式を望んでゐる。例へば小室分割を大室とし眠床は大人のみとして子供は子供室に獨立させて疊敷の廣い座敷兼寢臺として數人の就寢を可能にする。床には椅子、机の類も置ける様にする事は住居費の上からも價値ある問題である。

衣服は全く支那の服装と變りがないと見て差支へないが暑いところだけに平常着は木綿、人絹等の安い布地で豊富に數量を持つてゐる。でも價格にすると當時で二、三圓程度のもので之等の實用着は最近可成り洋装が多くなりつゝある。昔は何れも無地物や縞物が大部分だつたが此頃は洋服生地が使はれる。だが老人は正式の黒地のものを平常でも着用するし、上流家庭は長裾の下にズボンを穿い



・本島人の住宅（正身）

て外出する。中流以下の一般は男女共ズボン

に簡単な上衣、男にはズボンの上にシャツを外に垂らして風の入る様にしてゐるのが多い。

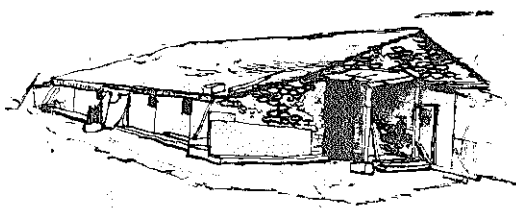
中都會から農村に於ては全く労働着の男女であるが路上を素足で活歩してゐるのが大部分であると云つて差支へない。然し若い娘等の農耕其他の労働には粗末ながら内地と違つた明る色の上衣に圓錐形の笠をかぶつて歩いてゐるのは實に健康をうである。内地の娘さんや奥様方が暑い日盛りに和服に帯を細めて汗だくの歩行は決して賛成出来ないし、その歩行の姿態も非常に活力がない。本島人の生活の合理化の前に内地人の熱地帯に於ける適性生活を唱導したい。

蕃社の生活については何等の實見を持つてゐないし又その種族はパイワン、アミ、タイヤル外五種族から成るものでスレートで屋根壁を作るもの、竹を編んでなすもの、草屋根、茅葺、草壁、竹柱等々で屋根の形等も多種多様に亘る様である。何れも原始的なもので一室か二室で屋内を三、四尺掘下げて土間を作り腰掛式の廣臺が部屋の隅に置かれ、用具は雑然たるものらしい。眠るのにも土間にうづ

くまつて明すとも聞いてゐる。

歸途日月潭の風光を愛でながら、可成り非道い霧雨の中を對岸の水社化蕃（ツォウ族）

の蕃社へ發動汽船で出かけた。海岸の傾斜地に道路を挟んで兩側に約三〇戸の草屋根、土壁の集合住居が並んでゐる。頭目の娘タマニとシニューホウの案内で自分の改良住宅を見せに呉れたが内地の飯場の様な木造建築で正面入口の室は二間四方の土間で正面に祭壇と長床几、椅子があり右に連つて房間とも云ふべき居間面積の三分の二程土間より高くなつて疊が敷かれ、次が土間の炊事部屋である。左手の部屋は物置である。タマニはこの改良住宅は昔のものよりズット奇麗で住みよいと美しい目を輝して説明するのである。彼女は十七歳の美人で頭目一家の表徴として頭と襟に美しい貝ボタンとトンボ玉をつないだ飾りをつけてゐるのである。薄紺の地味なデレー風の上衣の下に胸から腰下長くサロンの様に濃紺の木綿か麻の厚手の下衣で包まれて腰で締めてゐる。腰下の邊に白や茶の横縞が太く織られて更に赤や青や黄色の毛糸刺繍が鮮やかに又細かに幾何學的な模様を表はしてゐるのが



・番屋（スレート造）

唱が背山に木霊して霧雨に包まれた日月潭の湖上に流れて行く。

### 土俗的工藝

近代の臺灣の工藝と云ふ事になると勢ひ土俗的な工藝と産業的工藝と分けられる事になる。この土俗品の中でも土着人の自家生産になる用具と販賣を目的とした生産品とがある。前記のものには實に特異的な臺灣の傳統を偲ばせる珍品があり各種番人の手になる衣服、頭頸飾、蕃刀、木彫、船、編組籠其他の容器

も上品でうれし  
い。

蕃社の女達が集つて来て杵搗き唄も面白く中央の敷石を杵で搗きながらぐるぐる廻ると側に蹠つた二三人が竹筒風の樂器で拍子をとリ、異國的な美しい合

等臺北博物館に蒐集されてゐるものを詳細に  
巡視するだけでも興味津々たるものがある。

**衣服** 各種族によつて多様な形があり、その技巧も種々で一樣には述べられない。上衣の如きものシャツ様のもの陣羽織風のもの、袈裟風、サロン型。中でもタイヤルの蕃布は麻布で麻絲の手紡ぎ手織の單純な原始的な縞柄が却つて玄人に好まれる。其色彩や圖案は決して支那風の派手なものではなく流く落ついたもので、特に之等に施された刺繡の如きは古代錦を思はせる素晴らしい逸品が多い。古くは通貨であつたらうと想像される貝の精妙な縫付裝飾は巧妙な下手物として觀賞に値するものである。

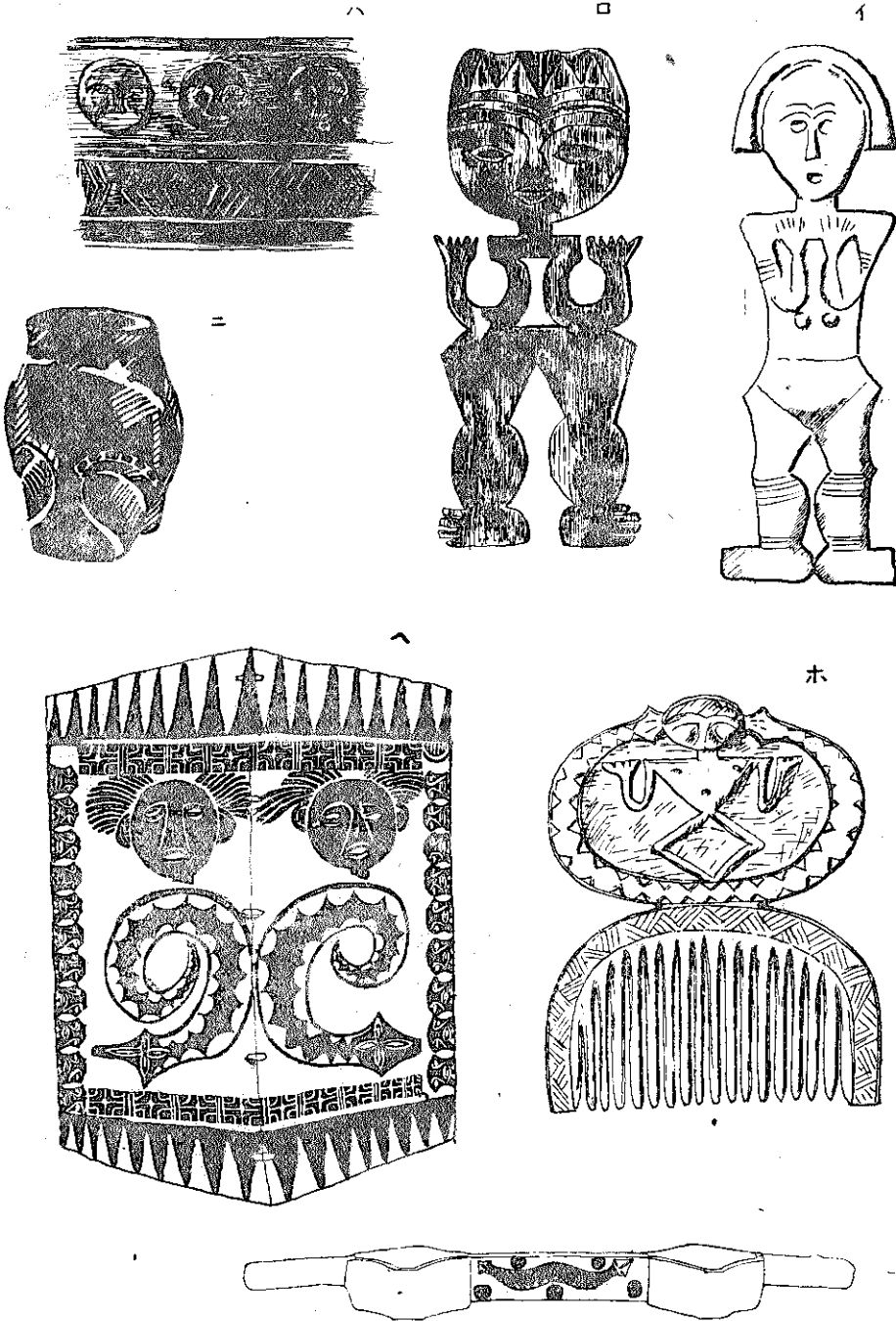
**籠類** 竹製、籐製等があるが、何れも自家用の魚籠、紡絲入れ、野菜入、背負籠、提籃、衣類入等あらゆる種類と形と技術が施される。全く傳統的な力による自家用工藝品で天來の雅味を持つところ内地の下手物蒐集家の垂涎措く能はざるものなのである。

**彫刻品** パイワンやヤミ族は生蕃中最も優れた藝術家である。武器としての楯、刀の柄及鞘、火藥入、槍の柄、祈禱函、盃、罎、人

形、櫛、匙、枕、パイプ、祭器等の日用雜器の外建物の軒桁、柱、羽目板等に大膽卒直な彫刻が施されてゐるが頭目や有力者に限られてこれを専用される事を許されると云ふ事である。ヤミ族獨特のものとして出漁用の舟は獨木舟ではない組立式で舷側に彫刻して紅褐色、黒、白等の濃い色彩を施して其形又優れたものである。これ等の圖案は直線や幾何學的文様の外に百步蛇と云ふ毒蛇や正面向の人間の奇妙な形に辨化が試みられてゐる。パイプの如きは人の首を千變萬化に彫りこなすし男女の人形彫刻は生殖器を露骨に表徴して區別してゐる點は天真以外の猥雜感はない。

**蕃瓢** 瓢箪である。高砂族の種子入で内地種の様子に胸のくびれが少くすんぐりしたものが多く。口元や胴に麻紐を通してブラ下げるが仲々風雅なものである。

**トンボ玉** 南部に居住する高砂族の祖先傳來の至寶で島内でも珍重され市價を益々高騰させてゐる。中でも古代硝子製のものはパイワン族の所有するもので蒐集家の渴仰の的となる。この出所は詳かではないがエヂプト、メソポタミア邊から祖先が手にして渡臺した



・バイツン族の木彫に現はれた意匠  
 イ、人物文様 ロ、酒杯の人物文様 ハ、蒸籠上部の人物と線文様  
 ニ、パイプの人物文様 ホ、櫛の人物と幾何文様 ヘ、櫛の人頭、  
 百歩蛇と幾何文様 ト、連杯の人頭と百歩蛇文様



ものだらうと云ふのだから三百や五百年のものではない。近代支那商人から入手したイカ物では問題にもならないが一個のトンボ玉が花嫁と交易するとさへ云はれる。男も女も頸飾や腕飾に、時には腰へも垂下させる。貴重なものでは決してケバケバしいものではなく美しい上品さを持ち、形は管玉又は棗玉で黄、緑又は夫等の縞文様のもの、黒地に朱や黄の丸い斑點がある。パリチー、マルタムラン、ムリムリタン、パロラグゲン、マロカリン、バラ、ボラ、マルチガチン等の品位順を示す名稱があるそうだ。

**竹細工** 臺灣は竹の國である。到る處山野に叢生して風景に和かさを添へてゐる。桂竹、刺竹、麻竹、長枝竹、石角竹、等々八屬三十餘種。桂竹は加工用に、麻竹は巨大なため建築材に刺竹も農家の建築用材となり、麻竹の根は火焙りにもなると云はれる程大きい。更に之は竹筏(テツパイ)として重要な役目を果す。この外竹の利用は廣範で日用品の半数以上は竹と云つても差支へあるまい。水筒には外皮をそいで使ふし、日月潭の杵搗音頭のベースのポコボン、ポコボンも之である。寢

臺、椅子、戸棚、籠、聯、枕、パイプ、蓆等々。私も例のペリアン女史推賞の子供の竹椅子をぶら下げて歸つたが末の子供は之で育てた。この頃は隣組の先生に喜んで使つて貰つてゐる。竹の皮の笠は島内人の廣く使用するもので、折疊の出来ない此地方の提灯の骨も竹である。

**特産品** 元來土産物は特産品には感心したものが少い。御多聞に洩れず臺灣にも困りもないが少い。甲乙なく拾ひ上げて見ると前記の土俗的なもの外番布、蕃刀、武器類、匙、櫛等があるが自分でも買はずに惜しかつた物に背負袋がある。蕃人用のリュックサックで網目編の袋である。

樟製品の美麗な整理を見せた算笥や火鉢、衝立、鏡臺、文庫、硯箱、ハガキ入等があるが決して感心する様なものではない。

菊花木の蓆入、蓆盆、茶卓、蛇皮のケース類、ガマロ、ステツキ、ハンドバッグ、椰子實細工の蓆入、水呑、菓子器、花生、竹細工藤竹バスケット、高砂漆器の盆、蓆入、花瓶、インクスタンド、箋蟲細工の草履、ガマロ、紙入、ハンドバッグ、大甲蘭製の帽子、ハン

ドバッグ、ケース類其他各種の人形、葉團扇の類であらう。まあ御買求めの節は充分の選擇が必要だらう。

### 産業的工藝

臺灣は從來朝鮮等に比較して決して工業的に進歩を見せては居なかつた。むしろ農産に重點が置かれてゐたと云へるだらう。然し近年島内諸政が完成し工業政策が唱導されて以來、特に日支事變後南への基地として又島内自給自足の建前からその必要が急速に上昇しつゝある状態で私の渡臺の目的も島内木工業の技術的振作により從來内地に依存した家具其他の木工品を凡て自給自足し將來は南方交易にまで向はせ様とする總督府の工業政策に基くものであつた。こゝで私としては木工業について詳述す可きであるが之は當所寺坂技師が擔當記述される筈であるから概略に止める。

**陶磁工藝** 臺中州南投の陶磁器は清朝の嘉慶元年(寛政八年)附近の粘土を以つて磚瓦の製造に始まり文政四年頭、尾、中の三窯の設立を見、諸器の製造を試み三十年を経て盛

大を極めたと云ふ。明治三十四年廳長小柳氏技術者を内地より招いて専心改良を加へ一時南投燒の名聲を擴め組合組織として現在に至るとある。現在機械ロクロ、手動ロクロ等により比較的下級品のみの生産に限られ二百萬圓を出でざる状態である。硝子工業は明治十七年内地より此業を繼承して二三の工場が板硝子、硝子瓶を製造しつゝあり十萬圓を僅かに超える程度のもの。

**爆竹工業** 大正五年臺灣爆竹會社の設立によつて始まり本島人間の日常品(支那人同様)として僅かに臺北の一工場生産十萬圓に達せざるものであつたが戦時下の今日知る由もない事である。

**手編帽子工業** 手編帽子は明治三十年現在新竹州下にある苑裡の辨務署長淺井氏が西勢庄の洪氏喬に大甲蘭を以つて編製させたのを其の濫觴とすると云はれる。其後林投織維セル引紙原料が用ひられ輸出も大いに振つたわけである。産地は主に臺中、新竹州下の海岸から漸次全島に普及され製造業者二千、職工數十五萬、生産額二百四十萬圓。私も旅行中安平其他の村落の廟堂等に婦女子が腰を下し

て繊細な手編に餘念のないのをチョイ／＼見掛ける事があつた。

**木製品工業** 先住民時代以來のものに違ひないが、明末の支那移住民の渡來後盛になつたもので當初は凡て支那式であり領臺後愈々内地式に轉化し其種類は家具、指物、割物、箱桶類生産額六百五十萬圓。島内は森林面積七〇%と云ふ廣大なものであるが地勢の關係上搬出困難、原始的混交林多く、最近は南洋材の輸入も閉されて森林確保に大童の事であらう。家具製作等の技術は未だ幼稚の域を脱せず、工場工業的生產形態も内地に比較して非常に遅れてゐると見る可きだらう。臺灣としては最も有望な工藝産業として美材活用の方途と技術練磨が緊急必要とされるし相當大きな生産工場計畫も樹てられるべき今日に立至つてゐる。私の講習に於ても講習生の大部分が本島人であつたため講義にも苦心以上の苦心をさせられたし、製圖は勿論圖面の理解さへも困難とされた。工具が凡て支那式のもので押鉋、押鋸の類には同行の實習教師も弱り切つて了つた。

**漆器工業** 主として臺中地方にさゝやかな

家内工業として生産されるもので古く支那人によつて傳承されたものであらう。臺中に工藝傳習所があつて中山公氏が指導に當つて居られる。元來當地の漆樹は高雄州商工獎勵館長坂田氏がその昔河内出張の際、漆實を二袋持参し某漆店に勸奨して植樹せしめたものだそうで十數年を経て今日に至り相當の噸數を擧げるに至つた。其質は内地物に劣る事がないと云はれる。近年理研が電器化學工場を新竹市郊外に設立して琉球の斯道の權威生駒技師を工場長に招じて事業の一部として理研漆器工場が開始された。丁度私が工場を訪ねた時はその端緒について間もない頃で半日氏の抱負談を聞かされて將來を祝福した次第であるが、既にロクロ、スクレーパー、手押鉋、バンドソー、サーキュレーター、自動送鉋等の機械設備や乾燥室も完成して若い職工を養成しながら生産に手を染めてゐた。木地材として烏心石、荊桐の類も構内に山積して將來の臺灣漆器の活潑な動向を感ずる事が出来た。

(以下一九九頁へ)

南方に對してはその要目となり、北方本土に對しては樞要の中樞となり、その産業體制も農から工に重點の移動等、國家の臺灣に望む要請は益々重大の度を加へ來つた秋、その造型性格には、北南併せ呑む複雑、愉快なる課題に當面するに至つたと考へられる。從來見られた經濟、文化、その造型の全てが一樣に北を矢印としてゐたかの如き事等も此の際既に修正せられた事であらう。

幸ひにして、島内の種々な生活様相とその工藝、生産技術は今後のこうした臺灣の性格付けとなる本物の臺灣工藝誕生の爲には極めて豊富に、興味あり、又貴重なる資料の多數を藏してをり、且て積木の思ひ出の中に住み暮した佗びしさから、聽ては太々しく根を張つた生活の造型を持ち得よう事が期待される。

臺灣を考へ、尙より南方を思ふとき、一層多くの課題が待つてゐるのを知る。その土地では假りに一夜を凌ぐ小屋にもせよ、一飯を盛る椀皿にもせよ、その造型性格とそこに出現される環境は何處までも發展的であり偉大なる日本のかたちづくりの一齣であり度いものである。一つの工藝品の在方が日本の或ひ

は大東亞の生活構成として全體から捕へられる事無しに、唯に美しいといふ事だけで、その生活文化の全貌をも感傷の中に眺めやる事の過ちを極力に避け、何處までも東亞共榮の生活の中にその土地の本物を探つてゆき度いものである。

(筆者は東京美術學校圖案部囑託)

(一九五頁より)

かうした臺灣の工業に従事する職工について面白い話を聞いたのであるが本島人と内地人との作業能率上適性温度を調べて見ると前者は二十三度半、後者は十九度半と云ふ差異を認めるさうである。私等も七月の眞夏の渡臺で朝八時から午後四時迄の強行講習一週間には相當にこたへもし、どうも日中街上の歩行の際の暑さにはすつかり度臍を抜かれて了つた。どうしても適性温度の様な氣がしないところやつぱり内地人なのだらう。

附記 參考文獻。本多修氏著臺灣の民家と土角造

り、統計數字は昭和十三年度

(筆者は當所關西支所長)

主なものは砂糖・茶・酒精・鳳梨罐詰等である。近年日月潭を利用する電力事業が發展し、アルミニウム製錬等の工業が勃興しつつある。砂糖一領有以來製糖事業に主力を注いだ結果、甘蔗作付面積の擴張、品種の改善、栽培方法の改良及び技術並びに設備の向上によつて大飛躍を遂げ、今や吾が國は自給自足の域に達し、昭和十四年の産額は二千三百六十四萬五千擔に上り、本島貿易の大宗となつた。なほ砂糖原料による酒精、特に無水酒精工業も發展しつつある。茶・ウーロン茶と包種茶とで、共に海外に輸出される。包種茶は花香茶とも稱し、香氣高く、南洋一帯に歡迎され、ジャワ・クイを主な販路としてゐる。紅茶も著しく改善せられ輸出量が増した。その他酒精・鳳梨罐詰・鐵工品工業等の外にバガスバルブ工業が新に興つた。

## 貿易

大部分内地との移出入で、毎年出超を續けてゐる。輸移出の主なものは砂糖・米・鐵・バナ、・パインアップル・酒精・樟腦・茶等で輸移入の主なものは絹織物及び綿織物・硫